

(電子メール施行)  
農技第1516号  
令和3年10月28日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和3年度病虫害発生予報第6号を發表します。

令和3年度病虫害発生予報 第6号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
トマト	コナジラミ類	平年並	平年並
ハクサイ	黒斑病	やや少	少
	白斑病	平年並	やや少
	べと病	平年並	やや少
	軟腐病	平年並	やや少
	アブラムシ類	平年並	やや少
冬キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	やや少	少
冬レタス	菌核病	やや少	少
	灰色かび病	やや少	少
	腐敗病	やや少	少
	ビッグベイン病	やや少	少
イチゴ	灰色かび病	やや少	少
	うどんこ病	平年並	やや少
	アブラムシ類	やや少	少
	ハダニ類	平年並	やや少
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並

\* 気象の概況

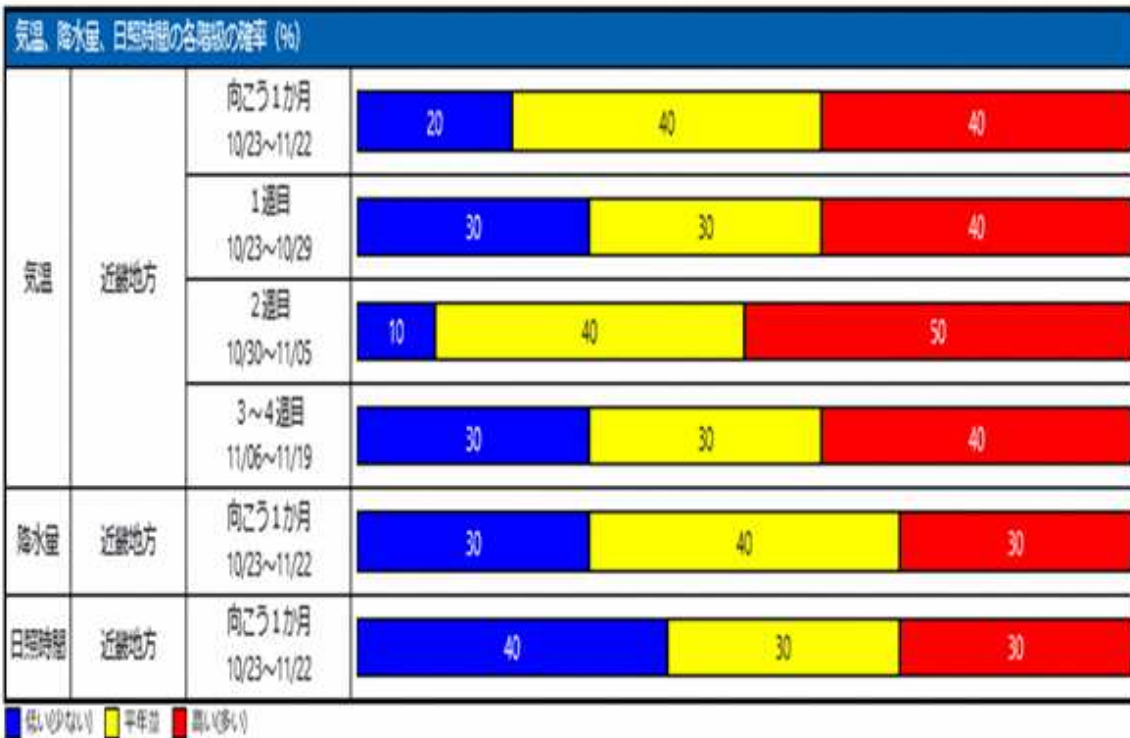
近畿地方 1か月予報

(10月23日から11月22日までの天候見通し)

令和3年10月21日

大阪管区气象台 発表

近畿地方 1か月予報(10/23~11/22)		
2021年10月21日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 10/23~11/22	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
2週目 10/30~ 11/05	気温	2週目は、高い確率50%です。



## \* 発生概況及び防除対策上の留意点

### トマト

#### 1 【コナジラミ類】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並  
(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の場内圃場（加西市）では、タバココナジラミの発生が認められており、寄生複葉率は3.3%（平年値21.7%）、成虫数は複葉あたり0.03頭（同0.7頭）であった。9月下旬の現地調査では発生株率5.3%（前年値9.0%）、発生圃場率33.3%（同25.0%）と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、野外からの侵入は少なくなるものの、施設内では平年並の発生で推移すると考えられる。

ウ タバココナジラミによって媒介されるトマト黄化葉巻病は、一部地域でやや少ないながら、例年より早い時期から発生が認められている。本病の防除には、コナジラミ類に対して施設内への侵入防止と徹底した防除による蔓延防止が重要である。具体的な対策はトマト黄化葉巻病対策啓発リーフレット「生産者用防除資料」（県立農林水産技術総合センター病害虫部（兵庫県病害虫防除所）のホームページ内「病害虫に関する技術情報」に掲載）を参照すること。

### ハクサイ

#### 1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量： やや少  
(2) 予報の根拠

ア 10月中旬の場内圃場（南あわじ市）、現地調査とも発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生がみられるようになると考えられる。

#### 2 【白斑病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並  
(2) 予報の根拠

ア 10月中旬の場内圃場（南あわじ市）では発病は確認されていないが、同時期の現地調査でやや少ない発生を確認している。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生が平年並になると考えられる。

#### 3 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並  
(2) 予報の根拠

ア 10月中旬の場内圃場（南あわじ市）では発病は確認されていないが、同時期の現地調査でやや少ない発生を確認している。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生が平年並になると考えられる。

#### 4 【軟腐病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並  
(2) 予報の根拠

ア 10月中旬の場内圃場(南あわじ市)では発病は確認されていないが、同時期の現地調査でやや少ない発生を確認している。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生が平年並になると考えられる。

#### 5 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並  
(2) 予報の根拠

ア 10月中旬の場内圃場(南あわじ市)では発生は確認されていないが、現地調査でやや少ないながら発生が認められている。結球後のハクサイ内部はアブラムシ類の生息に好適な環境であるため、今後の発生が懸念される。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、結球内で増殖が進むおそれがあるので注意する。

### 冬キャベツ

#### 1 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量： やや少  
(2) 予報の根拠

ア 10月中旬の場内圃場(南あわじ市)、9月の現地調査ともに発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

#### 2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量： やや少  
(2) 予報の根拠

ア 10月中旬の場内圃場(南あわじ市)、9月の現地調査ともに発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生に助長的であることから、発生がみられるようになると考えられる。

### 冬レタス

#### 1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量： やや少  
(2) 予報の根拠

ア 10月中旬の場内圃場(南あわじ市)、10月上旬の現地調査ともに発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されている。季節の進行に合わせてトンネル被覆が行われることから、本病の発

生がみられるようになると考えられる。

## 2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月中旬の場内圃場(南あわじ市)、10月上旬の現地調査ともに発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されている。季節の進行に合わせてトンネル被覆が行われることから、本病の発生がみられるようになると考えられる。

## 3 【腐敗病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月中旬の場内圃場(南あわじ市)、10月上旬の現地調査ともに発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されている。季節の進行に合わせてトンネル被覆が行われることから、本病の発生がみられるようになると考えられる。

## 4 【ビッグベイン病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月中旬の場内圃場(南あわじ市)、10月上旬の現地調査ともに発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されている。しかしながら、本年産春レタスでは発生は平年並であり、本病は土壌病害であること、本病を媒介する*Olpidium* 菌が圃場内に一定量存在することから、発生がみられるようになると考えられる。

# イチゴ

## 1 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月上旬の現地調査では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生がみられるようになると考えられる。

## 2 【うどんこ病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 10月上旬の現地調査では発病は確認されていないが、場内圃場でわずかに発生が確認された。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高く、降水量は平年並と予想さ

れている。施設内は高温多湿になりやすく、今後、発病が助長され、平年並の発生になると考えられる。

### 3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少  
(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の現地調査では発生は確認されていないが、今後1か月の気象予報によると、気温は平年並～高いとされており、また施設内では暖房が使用されることから、増殖に伴い発生がみられるようになると考えられる。

### 4 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並  
(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の現地調査では発生は確認されていないが、同時期の場内圃場ではやや少ないながら発生が確認されている。  
イ 今後の1か月予報によると、気温は平年並～高いと予想されており、また施設内では暖房が使用されることから、ハダニ類の増殖が進み、平年並の発生になると考えられる。

### 5 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多  
(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の現地調査では発生株率13%(平年値35%)、発生圃場率75%(同100%)の発生であった。  
イ 今後、野外からの成虫の飛び込みは減少するものの、1か月予報によると、気温は平年並～高いとされており、施設内では本種の増殖に好適な条件となり、やや多い発生になると考えられる。

#### (3) 防除上の留意点

ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。  
イ 薬剤散布を行う場合は、薬液が株全体にかかるように行うこと。  
ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤の効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。  
エ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。  
病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）  
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載  
(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)